

川崎市中原区で発見されたミズヒマワリ

Gymnocornis spilanthoides found in Nakahara Ward, Kawasaki City

吉田多美枝
Tamie Yoshida

2007年9月、かわさき自然調査団・昆虫班の雛倉正人氏より、市内中原区等々力緑地にミズヒマワリが成育しているとの情報がもたらされた。9月27日にミズヒマワリを探しに等々力緑地に出かけた。

等々力緑地は、サッカー場・各種競技場・プールなどの運動施設や、ふるさとの森・日本庭園などを備えた総合公園で、広さは32.5haある。

広い園内で、ミズヒマワリの成育地を見つけるのは容易なことではなかった。しかし幸いなことにミズヒマワリは名前の通り、水の中に生える植物なので、まずは水を求めて園内を奥に進んだ。日本庭園と名付けられた地区の、小さな池の辺でミズヒマワリは簡単に見つかった。台風で倒れたのか水中にもぐったものは節から根を出し、茎の先端は再び起き上がって延びている。その様子から、やわらかそうに見える植物体は、見かけに反して丈夫な植物だと考えられた。

隣接する大きな水辺は釣堀になっている。この釣堀の水が、日本庭園の池を潤したのち排水されるよう設計されているため、小さい池であるにもかかわらず、この池は常時一定の水量が保たれている。

ミズヒマワリ *Gymnocornis spilanthoides* DC. (キク科 ミズヒマワリ属) は水中や水際に生える抽水性の多年草で、中央アメリカ～南アメリカ(中部)原産である。千葉県・東京都・愛知県・神奈川県に帰化しているが、神奈川県植物誌2001には記載されていない。

水族館や水槽用の水草が逸出したものであるが、種子繁殖の他、各節に根を出して広がり、葉片でカルスを再生するなど植物体の断片でも繁殖するため大繁殖が予測される。水中での大規模な繁殖により水路を塞ぐなど将来害草となる可能性が大であるため、特定外来生物規制法の指定種となっている。

高さは1～1.5mになり、茎は軟弱で折れやすい。花期9～10月。花茎は稜があり、頭花の径は約1cm。花柄や花序の枝には毛が密生する。総苞片は線形で長さ約3mm、背面に細毛がある。総苞は長さ5mm、多数の小花が密集する。

等々力緑地の個体は現在のところ局所に留まっているが、今後の動向に注目したい。

青少年科学館標本：中原区等々力2007.9.27. 182990・中原区等々力2007.9.27. 182991

著者紹介

吉田多美枝 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 種子植物班班長



図 川崎市中原区の等々力緑地で発見されたミズヒマワリ